

1 生命の神秘さを実感させたい

(1) 児童の実態と教師の願い



自分の問題を見通しをもって主体的に追究してほしい。  
 生命の連続性についての見方や考え方を深め、生命を尊重する態度を育てていきたい。

2 生命誕生の喜びや神秘さを感じる

(1) 自然事象との十分な触れ合い (単元構想)

この単元では、子供が主体的に課題を選択できるように、総合的な学習の時間や道徳・特別活動と関連づけ、子供たちに内部情報を蓄積させていった。  
 メダカに関しては、一人2匹のメダカを飼育した。子供たちは、自分だけのメダカであることから、とても大切に育てていた。人の誕生については、自分が生まれるまでの様子を家族から取材することで、家族の喜びを感じ取った。また、人の誕生のビデオ (イギリス CH4 製作「THE WORLD OF THE UNBORN」) の中から、胎児の成長や出産シーンを中心に視聴し、感想や疑問点を話し合うことで、関心を高めていった。



<オスとメスのメダカを飼育>

小石や水草を入れるとメダカが喜ぶよ。  
 水を交換するときは、前日からくんで置いた水を使うといいよ。  
 えさは食べ残しがないように少しずつあげるといいよ。  
 毎日、何回もメダカの世話をがんばったよ。

ヤッター! メダカが卵を産んだよ。  
 卵を解剖顕微鏡で見よう。

卵の中は毎日少しずつ変わっているよ。  
 心臓が動いている様子や血液が流れている様子が見えたよ。  
 こんなに小さな卵の中で生きているんだね。

## (2) 疑問を問題へ

メダカや人の誕生に対する追究活動を行う前に、一人一人が飼育活動を行ったりVTRを見て話し合ったりしたことによって、子供たちの内部情報を蓄積し、もっと詳しく知りたいという気持ちをもった。そして下記のように自分の問題を具体的に把握し、それぞれの課題を選択することができた。

	自分の問題	選択の動機
メダカコース	「何日で卵から産まれるか」	← 卵の中の様子が少しずつ変化したこと
	「どんなふうに生まれてくるのか」	← 卵をつけて泳いでいるメダカを見つけたこと
	「メダカの赤ちゃんを調べたい」	← 卵からふ化したメダカを観察したこと
	「人とメダカの誕生の違いを比べたい」	← 両方の誕生の様子を比べてみたこと
人コース	「おなかの中の様子はどうなっているのか」	← 胎児の写真を見て話し合ったこと
	「どのように成長していくのか」	← 「THE WORLD OF THE UNBORN」を視聴したこと
	「逆子について詳しく調べてみたい」	← 自分が生まれたときのことをインタビューしたこと

## (3) 「メダカコース」と「人コース」とのかかわり

人とメダカの発生や成長を比べることにより、その違いから生命に対する見方や考え方が深まり、生命を尊重する態度も育つと考えられる。また子供たちは自らの問題を追究する中でみんなに伝えたいという気持ちが高まっていた。

そこで、本単元では「人コース」と「メダカコース」がかかわり合う場として、ポスターセッションによる研究発表会を行った。子供たちは、自分が一番こだわり続けた問題について工夫を凝らして発表していた。聞いている方も、成長の仕方や命を育むための仕組みなどに感心していた様子だった。学級全体が、お互いを認め合う学びの場となり、生命誕生について新鮮な感動が得られたと思う。

わたしたちは、一人二匹のメダカを育てました。本でメダカのことを調べ、いい環境を作ってあげました。わたしがつこり笑うとメダカはだまってこちらを向いていました。「ありがとう」と言われたように感じました。そのメダカが産んだ卵を解剖顕微鏡で観察してみると、卵の中で心臓が動いているのが見えました。たった一ミリメートルの小さな卵の中にもかけがえのない命が育っていることに驚きました。

(N児のノートより)

## (4) 「生命」を再認識する場（心のノートの活用）

単元の終わりに、メダカの誕生と人の誕生の「似ているところ」と「違うところ」を話し合った。そして、心のノート「いま生きているわたしを感じよう」を読み、「命」とはどのようなものかを出し合った。「大切な命」「みんな平等な命」「助け合っていきたい命」「支えられている命」などという言葉が出て、すべてにかけがえのない「生命」があることを再認識することができた。



## 3 全ての生命を尊重する子どもの育成

- 一人一人がメダカを飼育したことで、繰り返し対象に働きかけながら意欲的に追究していくことができた。「自分のメダカ」という意識から、とても大切にしていた。クラス全体で飼育した場合でも、同様に生命を大切にできる態度をもてるようにしていきたい。
- 追究段階や発展段階において二つのコースが効果的にかかわったり、自分が調べたことを工夫して発表したりすることで、科学的な見方や考え方が広がったり深まったりした。
- 子供たちの追究力や科学的な見方や考え方が育っていく過程と、生命の神秘さを感じることで、のどちらも大切に学習を進めていくことが大切である。